

[佳 作]

「ジョバンニの島を見てから」

奥尻町立奥尻中学校

1年 川本 空

私は「ジョバンニの島」を見て、北方領土が昔とても大変だったことがわかりました。8月15日、日本が戦争で負けてから北方領土にロシア(ソ連)の人が来て、みんな不安そうに見えました。でも、北方領土の人たちは、教室でロシアの歌を日本人が歌ったり、ロシアの人が日本の歌「赤トンボ」を歌ったり、外に出て日本人とロシアの人で鬼ごっこをして遊んでいて楽しそうに見えました。

私は、もし奥尻に違う国の人 cameたら不安で何をしたらいいのかわからないし、こんなふうには仲よく出来ないなと思いました。そして、「ジョバンニの島」に出てくる純平と寛太のお父さんがロシア人に連れて行かれた所を見て、家族が離ればなれになっていくのは、とても不安だし、さみしい思いをすと思いました。でも、1947年9月25日、純平と寛太は島から離れる時、純平の隣に住んでいた女の子、ターニャが見送るのを見て、私は純平も寛太もターニャも何も悪いことをしていないのに、なんで離れることになるんだろうと思いました。そして、純平と寛太たちは、10月3日、日本とは違う所に連れて行かれました。それで収容所に行き、純平と寛太のおじちゃんが「お父さんがいる所は山の向こう。目と鼻の先だ。」と言った時に、私はほっとしました。でも、寛太が「お父さんに会いに行く。」と言い、純平と寛太で電車に乗りました。そして、この山を登れば会える。その所でおじちゃんと純平の先生に見つかってしまいました。でも、寛太が「お父さんに会いたい。」と言ってみんなで会いに行く所を見て、私は、家族は離れていても、今、ロシアの人に見つかってしまえば殺されてしまうのに、会いに行くのが家族ってすごいんだなと思いました。そして、ロシアの正月の日の夜、純平と寛太は会いたかったお父さんに会えた時、私は家族の力はすごいんだなと思いました。ロシアの人にも見つからないでこれたのも奇跡だと思いました。

お父さんと会って帰る時に、寛太が倒れてしまいロシアの人に見つかってしまいました。その所を見て私は殺されてしまうのかなと思いました。でも、寛太が弱っていたため、日本に出る船で帰ってもいいとなった時、私は安心した感じがしました。でも、正月明けに船に乗るために車で移動している途中で、寛太は汽車に乗って綺麗な野原の所、亡くなったお母さんの所に行ってしまう。そして、船に乗る所に来た純平たちは、亡くなった人は船に乗るまえにすてられることを知った。純平の先生とおじちゃんは、純平に寛太が生きてるように見せかけるために「銀河鉄道の夜」のお話をして、亡くなった寛太は、日本に帰ってこれた時に汽車で天に行ってしまう。

日本に帰って来て50年後、色丹島で卒業式が行われました。そこでターニャの孫から昔書いた絵をもらいました。でも、ターニャは1年前に亡くなっていました。それで、ターニャの孫に「一緒に踊ろう。」と言われて踊っている所を見た私は、まるで子供だった頃の純平とターニャが踊っているように見えました。

この「ジョバンニの島」を見て、北方領土は昔、どういうことがあったのか分からなかったけど、こんなに大変でさみしい思いをしたのが分かって、私は早くこの思い出がなくなることはないと思うけれど、このことを忘れないで次の生まれてくる人に伝えて行ってほしいと思いました。北方領土は、いつか日本にもどって来てほしいです。